

うき よ え み せん じゆ おお はし

浮世絵に見る千住大橋

文 禄3(1594)年、隅田川最初の橋として架橋された千住大橋は、現在の位置より200mほど上流にありました。橋長120mを誇るこの名橋は当時の巨大建築の一つで、楠か榎で作られていたと言われる橋桁が特徴でした。江戸から北へと登る街道の起点として人々の旅を支えると共に、隅田川沿いの名物としてしばしば歌川広重ら名所絵師の画題となってきました。昭和2(1927)年に鉄橋へと架け替えられてからもそれは変わることはなく、芸術家たちの目を惹きつけてきたのです。



▲歌川広重《名所江戸百景 千住の大はし》安政3(1856)年



▲橋本貞秀《日光御街道千住宿日本無類橋樑杭之風景本願寺行轡之図》慶応元(1865)年
高い視点からの風景を得意とした貞秀。徳川家康の250回忌にあたる年に、法会のために日光へ向かう東本願寺門跡の一行を橋上に描いています。左手には千住橋戸町と千住河原町が見える。



▲深沢栄一《新東京百景 千住大橋》昭和4~7(1929~32)年
震災復興の東京を描いたシリーズの一つ。鉄橋となった千住大橋を荒川区側から描いています。



▲二代歌川国明《千住大橋吾妻橋洪水落橋之図》明治18(1885)年
明治18年7月3日、大洪水で千住大橋が落橋しました。流れた千住大橋は吾妻橋に衝突し、二つの橋が流出しました。二代国明は、その時の様子を克明に描いています。